

筑豊文庫資料室OPEN

筑豊の記録文学作家である上野英信は、1965年鞍手郡鞍手町にあった廃屋の長屋を改修し、「筑豊文庫」と名付けました。以来そこを生活の拠点として執筆を続けるとともに、筑豊を訪れる数多くのジャーナリスト、作家、市民活動家等の拠り所として、「筑豊」発信の場となりました。

2017年、筑豊文庫の資料が遺族によって直方市に寄贈されました。その中の図書資料の展示・閲覧の場として、2020年7月21日直方市立図書館内に「筑豊文庫資料室」を開設しました。資料室では筑豊文庫にあった書籍の他、上野英信や関わりのある人の著作本、年譜や絶筆（複製）の展示をしています。今後上野英信や筑豊に関するイベントも企画していく予定です。多くの方に筑豊の記録作家上野英信の仕事や生き方を知ってもらい、改めて私たちの故郷、「筑豊」を考える場所にしたいと考えています。



〈筑豊文庫と関わった人々〉

筑豊文庫には連日、多くの人々が来訪し、テーブルを囲んで筑豊に関する問題や自らの仕事、生き方など様々なことを語り合いました。上野英信と深く関り筑豊文庫を支えた人々を紹介します。

〈詩人・小説家〉

岡部伊都子・金子光晴・高史明・高橋和巳・野坂昭如・葉室麟・松下竜一

〈記録作家〉

鎌田慧・川原一之・林えいだい

〈サークル村〉

谷川雁・石牟礼道子・森崎和江

〈写真家〉

岡友幸・岡村昭彦・超根在・本橋成一・山口勲

〈画家〉

上田博・菊畑茂久馬・千田梅二・山本作兵衛

〈出版関係〉

原田奈翁雄・久本三多・山福康政

〈古書店〉 柏木博



版画家千田梅二

キャップランプの先を見つめる、真剣でまっすぐなまなざし。上野英信と組んで作った「せんぷりせんじが笑った！」にそえられた版画です。

この版画の作者、千田梅二は、1920（大正9）年富山県で生まれ、1946年水巻町の日炭高松炭鉱の採炭夫となり、上野英信と出会います。1953年、千田が表紙を描いた文芸機関紙「地下戦線」を発行します。1954年には上野が文章を書き、千田梅二が挿絵をつけた、絵ばなし「せんぷりせんじが笑った！」を完成させます。上野がガリ版を刷り、千田梅二が版画を摺るといふ、手作業で作られました。「絵ばなし」は、学校教育を十分に受けられず、また厳しい労働と生活苦と闘う炭鉱の仲間に取りってもらうには、文章はできるだけ少なく、絵はできるだけ多く、と上野が考え書かれた、大人の絵本です。千田梅二はそれまで油絵画家を目指していましたが、この時から版画を手掛けるようになりました。「せんぷりせんじが笑った！」は大評判となり、続いて書かれた「ひとくわぼり」「親と子の夜」等が収められた「絵ばなし集」は、上野・千田の代表作となります。1956年、「炭坑仕事唄版画絵巻」完成。棟方志功からも賞賛の手紙をもらいます。

1958年、炭鉱不況と健康不安のため故郷の富山県に帰りますが、1980年還暦を機に筑豊に戻り、「ひとくわぼり」限定版や「炭坑仕事唄版画絵巻」の復刊や個展を開きました。

千田は採炭夫として共に働く仲間の生きざまに共感し、夜昼となく働く姿に尊厳を感じた、と書いています。作品からは、炭鉱で働く人々への熱く深い思いが感じられます。

「親と子の夜」 未来社 N913ク

「炭坑仕事唄版画絵巻」 裏山書房 NL567チ



はじめの一步 ~郷土資料の紹介~

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。

郷土の歴史や文化に興味をもっといただくきっかけになればと思っています。

『麻生太吉日記 1巻～5巻』 NL289チ

麻生太吉は、筑豊御三家の一人です。飯塚市を中心に多くの炭鉱を経営し、筑豊石炭業組合の総長、炭鉱業連合会の会長を務め、貴族院議員としても活躍しました。日記は明治39年から昭和8年まで収録されており、筑豊の近代史を知るうえで、貴重な資料といえます。

直方市立図書館

直方市山部 301-1 コミュニティのおがた内

TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902

<http://www.yumenity.jp/library/library.htm>